

**2025年度 協定校派遣留学生による成果報告**  
～2025年2月-2025年6月 マッセイ大学（ニュージーランド）留学～

**経営学部経営学科 坂巻 杏奈 （留学時2年次）**

- (1) 留学先：ニュージーランド・マッセイ大学附属英語学校 Massey University College（本学協定校）
- (2) 留学期間：〔2025年度第1学期〕  
2025年1月28日～2025年7月6日（約5カ月間）  
（授業期間：2025年2月3日～2025年6月19日）
- (3) 学習内容：English Language Programme at Massey University College  
（履修科目名）English for Academic Purposes 1 & 2
- (4) スケジュール：

月～金曜(授業のある日)	土曜、日曜
6:40 起床	9:00～10:00 起床
7:30 出発	～13:00 作業
8:00～12:00 授業	～22:00 自由時間 (友達との外出、買い物、イベント参加等)
12:00～17:30 食事・友人と会話 or 作業/学校のイベントに参加	22:00～0:00 作業
17:30～18:00 帰宅	0:00 就寝
18:30～19:30 夕飯	
20:00～21:00 入浴	
21:00～0:00 課題	
0:00 就寝	

- (5) 留学費用：支出費用総額約 2,400,000 円  
内訳：学費 NZ\$12,740（授業料 NZ\$11,776・入学金 NZ\$400・施設費等 NZ\$564）  
ホームステイ費（20週間） NZ\$8,080（NZ\$7,800・紹介料 NZ\$280）  
留学生保険（加入必須） NZ\$435  
航空券 268,000 円  
食費 14,000 円／月  
交通費 9,368 円／月  
旅行社代行料:75,900 円（ビザ代行料 31,900 円・入学手続き 44,000 円）

**【留学の動機】**

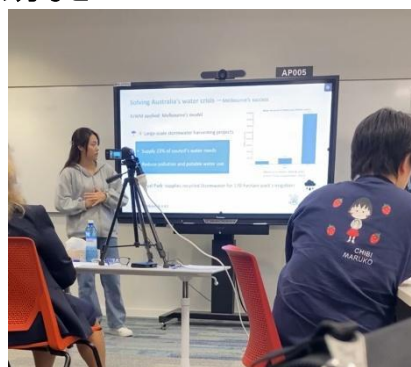
私は、自分の人生を挑戦し続ける人生にするための第一歩として考えていました。留学前の段階で自分が知っている世界、住んでいる世界の知識では、本当に自分が何をしたいのかを考えるためにはあまりに不十分で、未熟であると自覚していました。よって、たくさんの文化や言語、価値観に触れることで自己の視野を広めていき、自分の可能性や選択肢を広げるため、また、それにより国際的なキャリアを築くことが目的でした。

ニュージーランドを選んだ理由としては、欧米に比べ留学費用が比較的抑えられるオセアニアの中から、より自然豊かな環境に加え、過ごしやすい気候や多文化社会、治安の良さの面から考え、ニュージーランドを選択しました。マッセイ大学を選んだ理由としては派遣先であるアルバーニーキャンパスはニュージーランドで最も人口が多く、発展している都

市であるオークランドに位置しており、シティに出かけるのにも大して時間がかからず生活がしやすいだろうと考えたためです。

### 【留学の内容】学校・現地学生・宿舎の雰囲気、学習の進め方など

学校はたくさんの校舎とクラスルームがありました。無料ランチなどの学生生活活性化を促すイベントが学生代表グループを中心として行われており、現地英語に触れる良い機会だったと思います。同じ教室でずっと受けるわけではなく、その時々空いてる教室が違うようで1週間を通して3、4カ所の教室を曜日ごとに利用していたため、施設環境に飽きずに授業への参加ができました。



前半期のクラスは8時開始12時終了、後半クラスは12時開始4時終了、双方とも15分の休憩時間がありました。1クラスの受講人数は13～14名ほどで、EAP 2クラスの方が総クラス数が多く、若干英語のレベル別に分かれており、授業のレベル自体も上がりました。課題やテストの内容に備えて講義が行われる形で、担任の先生が1人ついてくださり、質問などにはいつでも積極的なサポートをしてくださいました。

課題についても本提出の前にプラン提出、下書き提出の課題提出が求められ、個別に先生がオンライン上でコメントを残した上、クラス内でも十分に一对一での対話時間が設けられており、「誰ひとり置いていかない」授業スタイルだと感じました。クラスメイトはほとんどが中国籍の方で、他にはベトナム、インドネシア、韓国、フランスの方も稀ですがいらっしゃいました。配属されるクラスのレベルが高いほど生徒たち、先生を含めてのモチベーションも上がっているように感じました。比較的生徒の年齢層が高く、家庭を持っている方も少なくありませんでした。クラスは講義型の時や頻繁なペアワーク、パブリックディスカッションなども含まれました。

基本的に課題が毎日あり、即ホームステイ先に帰宅するのは、勉強機の椅子が合わないという理由も含めあまり好まなかったため、大学内の施設、主に図書館に籠って課題をこなし、夕食の時間の目安である6時には家に着くように帰宅していましたが、本当に切羽詰まっている時などは先にホストファミリーに遅くなる旨を伝え、こちらで夕飯は済まし9時過ぎまで図書館にいることも稀にありました。授業中は翻訳機能の利用が禁止されており、英語から英語への辞典のみを使うことが習慣化されたのは、個々の調べ時間はかかるものの自分の語彙を広げるうえでの鍵になったのではないかと思います。

学校で参加可能時間に開催されるイベントにはなるべく全て参加することで友達の輪を広めることができました。私の場合は週に一回開催されるイングリッシュコーナーというミニクラブで主なコミュニティーを築き、さらには大学のクラブであるフリスビークラブへの所属へとつながりました。日本人というだけで日本に興味のある方がそのような社交の場ではたくさんお話をしてくれました。休みの日も十分にあったため、自分でミートアップというソーシャルネットワークを通じて現地の人と交流を図るため、イベントに参加していました。また、大学内で少人数募集されていた4週各1.5時間にわたる心理学のプチグループワークにも参加し、心理学専攻の学生が通常講義で学ぶような内容をカウンセラー兼教員の先生と他学生2人、計4人での学習経験を積みました。

### 【研修成果】

学修計画としては主体的に授業やイベントへの参加すること、ニュージーランドや異国文化を学ぶことを挙げていました。結果それらに対し、全ての項目について満足のいく成果を得られたと考えています。どのようにディスカッションを行うのか、どのように200文

字から 1,000 文字の説得型エッセイ、議論型エッセイ、報告書を書くのか、またそれらの課題遂行のためにどのような姿勢で授業に参加し、どのような計画性を持ってプランを立てるべきかなど、学生としての学習姿勢を改めて学びました。また、異国の人たちとの繋がりを経て異文化理解にいつそう拍車がかかったと考えています。さらには異文化理解だけでなく、自国がいかに世界各国から愛され、敬われているか、世界にとってどのようなポジションにいるのかを、日本人という事実を自らのアイデンティティとして生活する上で気付くことができました。

■ 語学力 TOEIC スコア 渡航後 820 点 (渡航前 690 点)

### 【身についた力】(語学力等の学修成果以外に学んだこと)

行動力、自主性と計画性です。やはり自分からさまざまなアクションを起こさない限り、成長を獲得することは難しい環境だったため、日本にいる時よりも常に挑戦に対してオープンになり、なんでもやってみる行動力はこの留学で身についたと感じます。計画性に関しては、限られた留学生活の中でより充実した1日1日を送るため、または学校から出される多量の課題と向き合うため、現地での必須スキルであったため自然と身についたスキルです。

### 【滞在先について】

#### 滞在形式:ホームステイ

ホストファミリーは長年 20 年にわたり留学生受け入れを行なっているようで、とても優しく、食事毎回お腹いっぱいになるほど美味しい料理を振る舞っていただいたうえ、積極的に会話もしてくださり本当に環境に恵まれたと実感しています。

### 【将来の展望】帰国後に描いている展望(進路希望や、将来の夢等)

将来的には、日本で会計分野の学習を続け、ニュージーランドで会計系の修士課程に進学し、現地での就職を目指したいと考えています。そのためにまずは日本で就職し、実務経験と専門スキルを積み、グローバルに通用する強みを身につけたいです。その後、ニュージーランドの大学院で学位を取得し、現地の資格制度や実務に対応できる知識を獲得しながら現地企業への就職を目指します。最終的には永住権の取得が目標です。

### 【海外生活中に困ったこと・悩んだことと、それらの解決方法について】

ホストファミリーが南アフリカ出身でその英語の独特の訛りから、しばらくその英語が理解できなかつたのは悩みでしたが、だんだんと現地に慣れ、色々な英語に触れていくうちに英語を言語と捉えるよりも、みんなが意思疎通をするために用いている共通の言葉たち、という広い定義で感じられるようになった段階くらいから、彼らの英語にも慣れてきたので良かったと思います。

学校生活では、周りとのレベルや課題量に悩んでいました。クラスメイトが自分と同じくらい、またはそれ以上の英語のレベルがないと自己の成長をクラス内で望むのはかなり難しいことだと肌で感じました。この問題に対しては次のクラス替えの時まで、より色々なソーシャルネットワーキングに参加し自らの英会話の機会作りに努めました。課題量に関しては計画性が大事で、少しでもその計算を間違えると大学の図書館に 5 時間箱詰めになったあと帰宅後も一晩中課題と向き合わなければならなくなるといったことが何度ありました。

外食代がとても高いので、休日シティに遊びに行ってもお金を節約しなければならない時が度々ありました。この留学というのは自分が望んで待ち侘びていたことだったためホームシックなどは一切なかったのですが、その期待による目的達成や自己の成長への不安からの重圧には一時期とても苦しみました。もともとある程度の英会話には自信があったた

め、よく言われる「3 カ月経つといつの間にか話せるようになっていく」という経験を得ることができなかったことから、一体自分はどのくらいの成長ができていくのか、そもそも成長ができていくのかという不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、このような不安を複数の友人に打ち明けたところ、みんなが前向きな言葉とともに自分のことを支えてくれたおかげで、自分のことをここまで大事な友達とってくれる人たちと出会い、その友人たちとかけがいのない関係が築けていること、この事実がここで得た最大の財産だと気づくことができました。

それからは、ただ無限に続くと思われていた「英語学習」に、別の言語を使って友人が作れること、心のうちをちゃんと説明できて相互理解ができること、それが私の言語学習の目標になったため、より気軽に残りの日数を過ごすことができました。

### 【留学を考えている人へのメッセージ】

金銭的支援が十分で悩んでいるのなら目的や目標をしっかりと持ったうえで、自分の意思で行ってみることは大きな挑戦への一歩になると思います。一生懸命自分の目標に向かって過ごす毎日の中で、かけがえのない絆へと巡り会えるはずです。そのような冒険心のある人にはぜひ留学という挑戦をしてほしいです。

